

情報処理タイプの相違が Listening Comprehension Test に与える影響

伊 東 武 彦

The Effect of Processing Type Variety on Listening Comprehension Tests

Takehiko ITO

1. はじめに

1970年代以降の第二言語習得理論の発展に伴って、リスニング能力の重要性は一層強調されるようになった。我国でも、文部省は、平成元年3月15日に公示した高等学校及び中学校学習指導要領改訂版において、「聞くこと」を重視する方針を示した。それにより、リスニング指導の機会は、平成6年度からの高等学校におけるOral Communication Bの導入にも見られるように従来に比べて増大している。

その一方で指導者側の明確な指導目標の不備が指摘されている。あるリスニング活動が学習者の学力レベルに適合するか否かを判断する場合でも、活動で用いられるPassageの言語要素（語彙＋文法）と発話速度の2点から検討されるだけである。そこにはコミュニケーション能力育成という視点が欠如している。つまり、情報を処理する対象は、passageの一部なのか、それともpassage全体の構成の理解にまで関わるのか、さらに、社会的な意味の理解は求められるのか、という点からリスニング活動を吟味していない。このため、今日の断片的な言語要素識別中心の活動段階に留まっている。これでは、現実のコミュニケーションに対処できるリスニング能力を育成することはできない。現実のコミュニケーションでは、語句や文レベルの意味理解にとどまらず、発話全体から状況と話者の意向を解釈し、さらに、状況と意向に適切に反応する力が求められている。

断片的な情報を処理する活動と、passageの構成の理解に関わる活動は、コミュニケーション能力の観点から考察するとそれぞれ異なる水準に分類される。前者では言語能力による語彙と文法の理解が必

要とされるのに対して、後者ではそれに加えて談話能力によるcohesionとcoherenceの理解が求められると想定される。

しかし、両者の理論上の相違がリスニングの成否に影響を及ぼすか否かは未検討の課題である。仮に及ぼすとする、両者はそれぞれ質的に異なる活動として定義されることになり、指導者には、それぞれの特性に留意した指導が求められることになる。

本研究では、リスニング活動における2種類の情報処理タイプ〔言語能力が単独に関わる情報処理(文処理タイプ)、言語能力に加え談話能力に関わる情報処理(談話処理タイプ)〕の相違が学習者のリスニングテストの結果にいかなる影響を及ぼすかを、短大生を被験者を実証的に検討する。それにより、コミュニケーション能力の育成につながるリスニング指導を確立する一助としたい。

2. コミュニケーション活動としてのリスニング

2.1 リスニング活動の分類

コミュニケーション能力の下位構成能力の内、3つの能力はリスニングにおいては以下のように定義される。

- ・言語能力 (Linguistic Competence)
.....言語構造の識別と理解に関する能力
- ・談話能力 (Discourse Competence)
.....談話の持つcoherenceとcohesionの理解に関する能力
- ・社会言語能力 (Sociolinguistic Competence)
.....社会的な場面における言語使用を社

会的ルールに基づいて理解し、適切な反応を判断する能力

これらの3つの能力は複合的な性格を持つ。談話能力は言語能力を前提にし、社会言語能力は言語能力と談話能力を前提にしているのである。そこで、リスニング活動はタスクが求める情報処理が上記の3つの能力と如何に関わるかによって3つの水準に分類される。Level 1 (L 1)には談話能力のみが関わる活動、Level 2 (L 2)には言語能力を前提にし、談話能力を主に求める活動、Level 3 (L 3)には言語能力と談話能力を前提にし、社会言語能力を主に求める活動が分類される。

図1：コミュニケーション能力の3構成要素とリスニング活動分類のための3水準の関係

Level 1	Lingu-	Dis-	Socio-
Level 2	istic	course	linguistic
Level 3	Competence	Competence	Competence

Level 1=LC, Level 2=DC(+LC), Level 3=SC(+LC+DC)

2. 2 L 1 と L 2 の相違

L 1 と L 2 に分類されるリスニング活動例をそれぞれ以下に示す。2つの活動で用いられる会話passageはほぼ等しい言語要素と情報量から構成され内容も共通しているが、タスクが求める能力水準の点で異なるものである。

例(1)：L 1 に分類されるリスニング活動

Teacher : Did you oversleep again?

Student : I was going to leave my home at 7:30.

T. : Then, what happened to you?

S. : I found my bike broken and had to repair it. So I left my home at 9:00.

Question : What time did the student leave his home?

例(2)：L 2 に分類されるリスニング活動

Teacher : Did you oversleep again?

Student : I was going to leave my home at 7:30.

T. : Then, what happened to you?

S. : I found my bike broken and it took

one and half an hour to repair it
before I left 〃

Question : What time did the student leave his home?

例文中の 線はタスクの答えを導くために不可欠な情報を示す。例(1)では、at 9:00が聞き取れれば正答が得られるのに対し、例(2)では、at 7:00とone and half an hourが聞き取れなければ正答に至らない。それに加えて、 線で示した語句を会話passage展開を示す情報として利用することが求められている。ア は前出のbikeと照応し、イ の接続詞は前後関係を示し、ウ はmy homeの反復を避けて省略されている。これらは談話のcohesion (結束性)を示す指標であり、2つの情報(at homeとone and half an hour)を適切に処理する際に必要となる。したがって、例(2)では、言語能力に加えて談話能力が求められることからL 2に分類されるのである。リスニングの情報処理過程においては、例(1)は文処理タイプ、例(2)は談話処理タイプ、と異なるタイプを用いていることが想定される。

2種類の情報処理タイプの相違は、はたしてリスニングの結果に影響を与えるだろうか。

3. 先行研究の概観

従来のリスニングの実証研究の大半は、音素レベルあるいは文レベルの情報処理過程の解明に力点が置かれており、当研究課題に直接言及したものはない。しかし、中には間接的ながらこの課題への糸口を与えるものがある。それらは、この研究の視点から解釈するとL 1とL 2の違いに言及し、両者の相違はリスニングの難度に影響を与える、としている。しかし、いずれが難度を高めるかということになると主張は次のように分かれる。(1) 談話処理タイプは文処理タイプよりリスニングの負担を増す。(2) 談話処理タイプは文処理タイプよりリスニングを促進する。これを活動の難易に置き換えて図式化すると(1) $L 1 < L 2$ 、(2) $L 1 > L 2$ 、となる(<は難度の大きさの方向を示す)。

3. 1 $L 1 < L 2$

島村他(1979: 53-58)は、大学生を対象にしたリ

スニングテストの結果から passage 内に分散された情報を組み合わせたり文脈の理解を求めるタスクは正答率を低下させる傾向を持つことを報告している。テスト方法は被験者を2つのグループに分け、第1グループには長文 passage を3回聞かせて聞き取った内容を日本語で書き取らせた。第2グループは2回聞かせた後、10問の設問を2回ずつ聞かせてその解答を英語で書かせた。第2グループに与えられた設問の内、2問は聞いた通りの英語をそのまま書き取るような解答を要求するのではなく、passage 内の複数の情報を総合したり、文脈を理解することによって答えが導き出される問題であった。両問題の正答率は他に比べて予想外に低く、それぞれ24%と33%にすぎなかった。これは、談話処理タイプは文処理タイプよりも大きな負担を聞き手に負わせることを示唆するものである。

一方、記憶力の点から談話の持つ多量な情報はリスニングを困難にすると主張するのは Rivers and Temperley (1978: 81) である。彼らは文脈の持つ効果にも触れた上で、次のように述べている。

Unfamiliar language elements which are being held in suspension and recirculated while decisions are being made as to the composition of the entire message impose a heavy load on the short-term memory. Sometimes the short-term memory becomes overloaded and some of these segments have to be discarded in order to leave room for the absorption of new segments.

多量な言語要素は聞き手の過重な負担となり理解を妨げる、という意見である。これは、後述する、文脈はヒントとしての役割を持つとの主張と対照をなす。

3. 2 L1 > L2

中山 (1979: 61-65) は大学生の dictation と transcription に現れた誤答を分析した結果、文脈を手がかりに意味を模索する行動を観察した。テスト方法は、先ず被験者に passage を3回繰り返し聞かせ、dictation させた。次に、被験者の中から任意に抽出したグループに完全に理解したと思うまで何回も聞き取らせ transcription させた。誤答の原因は様々であるが、その中に、被験者が認知しがたい音声に遭

遇した時に、文脈を背景に辻褄があうように調整を加えてなんらかの意味に結びつけようとする行動が見られた。つまり、文脈は欠落した情報を埋め合わせる際のヒントとして活用することによりリスニングを容易にする可能性を示唆している。

さらに、Herriot (1969: 166-169) は、ヒントはリスニングの際の予測力を高めるために有益であることを報告している。彼は、受動態と能動態を使って、意味上の主語と意味上の目的語の位置を交換して理解度の差と予測の関わりを調査した。実験では、予測通りの内容の能動文、予測通りの内容の受動文、予測に反した内容の能動文、予測に反した内容の受動文を聞き取らせ、難度を比較した。その結果、能動文と受動文の間の応答の遅れの差は予測のある文と無い文の間の応答の遅れの差を下回り、予測の有無に有意差が認められた。この実験は独立した文についてのものであり、談話を対象にしたものではない。しかし、談話内の cohesion を示す指標を認識することができれば、それは予測力を高めるためのヒントとなり passage の理解は促進されることを示している。

さらに、上田 (1993: 225-226) は、入試の dictation 問題の結果分析から、文脈はリスニングに貢献することを指摘している。長文 passage の dictation の中に見られる誤答は冒頭部分に集中し、特に音声的に類似している語と取り違える間違いが多く見られた。travel である箇所を trouble と記入した間違いは70%近くの受験者に見られた。この2つの語は音声的な類似性は認められるものの意味的なつながりは存在しない。上田は、この間違いの主たる原因は、この箇所を聞いた時点では解釈の助けとなる文脈が欠如しているためであるとしており、文脈の無い文の聞き取りは難しく、文脈を備えることで聞き取りを易しくすることができる、と主張している。

以上、2通りの主張を概観したところ、文処理タイプ、談話処理タイプいずれがリスニングの難度を高めるかについては立場によって異なるものの、両者は質的に異なる活動である、と示唆する点では一致していると言えよう。では、その相違は実際にリスニングの成否に如何なる影響を与えるであろうか。

4. ある短期大学における実験

4. 1 仮説

- (1) リスニングテストにおいて、タスクが求める情報が1文に含まれる(=文処理を求める)活動と、複数の文に分散して配置される(談話処理を求める)活動の相違は、被験者の得点差を生じないであろう。
- (2) 同一条件の上位群と下位群では、pre-testとpost-testの得点差は等しいであろう。

4. 2 実験方法

英語専攻の短期大学1年生3クラス84名を被験者とした。まず、pre-testとしてPre-TOEFL Listening Comprehension Testを実施し、聴解力において等質なS群(文処理)、D群(談話処理)2つの集団を設定した。

表1: 2群間の等質性の検定

group	n	\bar{X}	SD	t	df
S群	32	17.50	3.33		
D群	32	17.55	3.20	0.07	82

Post-testでは、S群にタスクが求める情報が1文に含まれるpassage、D群には談話内に分散して配置されるpassageをリスニングテストで与えた。Pre-testは平成6年5月、Post-testは同年7月にそれぞれ通常LL授業内で予告なしに行った。

4. 3 使用テストの種類

4. 3. 1. Pre-testの内容

Pre-TOEFL Listening Comprehension Testは全30問、所要時間15分の4肢選択問題である。タスクは独立した1文の意味を問うもの(12問)、短い会話の内容を問うもの(10問)、比較的長い会話または説明文の内容を問うもの(8問)の3種類である。使用される言語要素は、高校卒業程度の水準で、発話速度は120語/分である。採点は、正答1問を1点とした。

4. 3. 2. Post-testの作成と内容

英語検定2級、および準2級のリスニングテストを元に、タスクが求める情報の配置される様式において異なるS群用、D群用2種類のテストを作成した。テスト問題は、全15問、所要時間10分の4肢選択問題である。使用される言語要素は高校卒業程度の水準で、発話速度は120語/分である。タスクは、Part I [会話が示す絵を選ぶもの(5問)]、Part II [会話の内容を問うもの(5問)]、Part III [長文の内容を問うもの(5問)]の3種類を設定した。Part IIとIIIの選択肢は文字のみとし、視覚的資料は与えなかった。採点は正答1問を2点とした。

リスニングテストで用いられるpassageは、情報が配置される様式に基づいて分類される。情報配置の様式は、タスクが求める情報単位数と情報間の距離によって表2の通り決定される。

表2: passageの分類基準となる情報配置様式

		情報単位数			
		1	2	3	
距離	1文	I	II	IV	
	2文		III	V	
	3文			VI	

情報単位数とはタスクに答えるために不可欠な情報の数のことで、各単位は語ないしは句から成立する。情報間の距離とは、情報単位がpassage内で単一の文に配置されているか、それとも複数の文に分散して配置されているかを示す。なお、2. 2の例(1)はI、例(2)はIIIに分類される。それぞれの例文中の線部はこのタスクが求める情報単位である。

今回post-testとして作成された問題は、S群用はII、D群用はIIIのカテゴリーにそれぞれ分類される。IIはタスクが求める情報単位数は2であり、それらは1文に含まれる。したがって、S群では文処理で解答が得られるのである。それに対してIIIは、情報単位数は同じく2であるが、前後の情報単位の間には距離が置かれ、2文に配置されている。したがって、D群はタスクに答えるためにはpassage内の複数の文の情報をキャッチした後、それらを総合する作業が必要になった。そこでは、文と文の結合の仕

方や、代名詞とそれが指し示すものの対応関係を手がかりに話題の展開を追う談話処理が求められる。両群のテスト問題を前出 [図 1] の基準に当てはめると、S 群は、L 1、D 群は L 2 の活動として分類される。

例：S 群用と D 群用の passage (下線部は情報単位を示す)

S 群用 No.1

Man : Which one is Taro's father?

Woman : He is wearing a suit with glasses.

Man : Oh I see.

Q. : Which picture best fits the description?

D 群用 No.1

Man : Which one is Taro's father?

Woman : He is wearing a suit.

Man : The one with glasses?

Woman : Yes, that's him.

Q. : Which picture best fits the description?

上記の相違に加えて、両 passage は cohesion を示す指標の登場回数の点で異なった。これは、情報間の距離を設定する過程でそれぞれの passage に coherence (統括性) を保証するために発生した差である。談話には cohesion が存在し、passage が与える言語的示唆からそれを理解することは、passage の論理を把握する上で不可欠であるといわれている。Halliday と Hassan (1976) は、cohesion の指標を 5 つ挙げている。reference (照応)、substitution (代用)、ellipsis (省略)、conjunction (接続詞)、lexical cohesion (語彙連結)。両群の passage を含む cohesion の指標の登場回数を調査した結果、reference と

表 3 : 両スクリプト中の 5 タイプの cohesion 指標の登場回数

	S 群					D 群				
	照応	代用	省略	接続詞	語彙	照応	代用	省略	接続詞	語彙
Part I	10	3	0	3	3	13	5	0	3	3
Part II	3	0	2	3	1	4	0	2	3	2
Part III	15	2	0	4	2	19	3	0	4	1
Total	28	5	2	10	6	36	8	2	10	6

substitution において D 群は S 群を上回ることが判明した。

D 群は S 群以上に cohesion の指標の理解が求められることになった。なお、その他のリスニングテストの得点に影響を与えることが予想される要因 (情報の量、登場回数、登場順序) は統制された。

4. 4 実験の結果

4. 4. 1. 全体の傾向

post-test の結果を表 4 に示す。談話処理タイプを用いた D 群は、文処理タイプを用いた S 群より平均点が 2.00 高い。検定の結果、その差は $t = 1.85$ で有意傾向であり、帰無仮説(1)は完全には棄却されなかった。

表 4 : post-test の結果

S 群 (文情報処理)			D 群 (談話情報処理)			
n	X	SD	n	X	SD	t
42	16.95	4.95	42	18.95	4.47	1.85 †
df = 82						

4. 4. 2 上位・下位分析

談話処理タイプはどの被験者にも一律に肯定的な作用をもたらしたのだろうか。これを検討するために、pre-test の成績により両群を上位群と下位群に分け、(2 × 2) 要因配置の分散分析を行った。この結果を図 2 及び、表 5 ~ 7 に示す。リスニング能力の上・下位群と情報処理タイプの相違の間に交互作用は認められなかった。一方、談話処理タイプは下位群により有利に働いたことが判明し、帰無仮説(2)は棄却された。

上位群、下位群ごとに post-test の成績を S 群対 D 群で比較すると、どちらも D 群が高い。また、post-test において D 群の上位群と下位群の平均値は等しくなった (18.95)。これに対して S 群では上位群と下位群の差には有意傾向が認められた ($t = 1.91$)。以上から、談話処理タイプは特に下位群のリスニングを促進し、その結果、上位と下位の差を縮小する効果をもたらしたと言える。

図 2 : pre, post-testにみる
S 群・D 群の得点平均値の推移

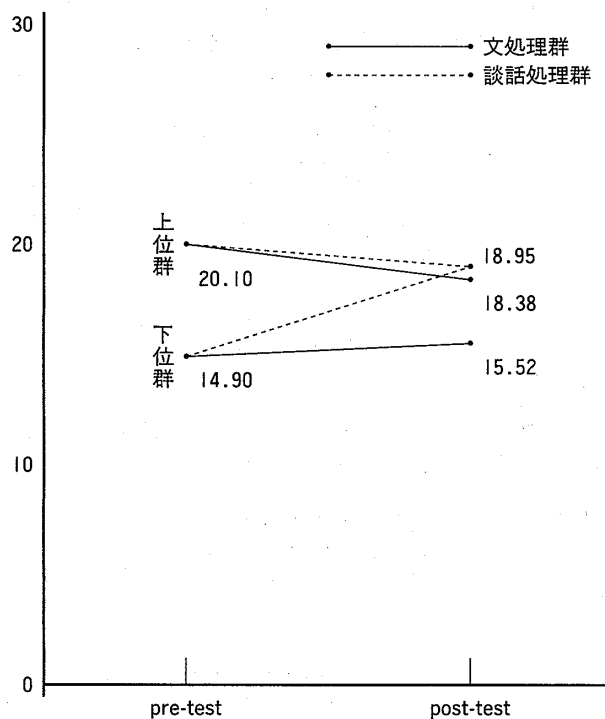


表 5 : 上位・下位×S・D 群

		上 位 群		下 位 群	
		pre-test	post-test	pre-test	post-test
S 群	\bar{X}	20.10	18.38	14.90	15.52
	SD	2.00	5.12	2.15	4.33
	n	21		21	
D 群	\bar{X}	20.10	18.95	15.00	18.95
	SD	1.72	4.40	2.12	4.53
	n	21		21	

表 6 : 分散分析表

要 因	S S	df	M S	F
S・D 群	84.00	1	84.00	3.68 *
上・下位群	42.94	1	42.94	1.88 n.s.
交互作用	42.94	1	42.94	1.88 n.s.
誤 差	1781.64	78	22.84	
全 体	1951.52	81		

* $p < .05$

表 7 : post-testにおける 4 集団間の平均値の差の検定

	S・上	S・下	D・上	D・下
S・上		1.91 †	.38	.37
S・下			2.49 *	2.45 *
D・上				0
D・下				

df = 40

4. 5 項目分析の結果

post-testの項目ごとに通過率を求め、S 群と D 群の差を検討した(表 8)。両群の通過率で、20%以上の顕著な開きが 2 つの問題 (No.4, No.7) で現れた。両問題に共通していることは、taskに答えるために不可欠な情報が配置されている文は、S 群用 passageのNo.4は16語、No.7は21語であり、それらは全15問の passageの中で際立って長い文である。それに比して、D 群用ではNo.4の最も長い文は10語、No.7では 8 語である。D 群では、1 文の情報量が少なくなったことにより cohesionの指標の認識がスムーズになり、その結果、必要な情報を適切に処理することが容易になったと考えられる。

表 8 : テスト問題項目分析

問題 No.	S 群			D 群			通過率における差 10%<○<20%<◎
	正答数	通過率	順 位	正答数	通過率	順 位	
1	39	0.93	2	39	0.93	3	
2	30	0.71	5	32	0.76	6	
3	34	0.81	3	41	0.98	2	○
4	4	0.10	15	16	0.38	13	◎
5	40	0.95	1	42	1.00	1	
6	11	0.26	13	13	0.31	14	
7	23	0.55	8	35	0.83	4	◎
8	29	0.69	6	30	0.71	8	
9	15	0.36	12	18	0.43	11	
10	26	0.62	7	31	0.74	7	○
11	23	0.55	8	22	0.52	9	
12	6	0.14	14	7	0.17	15	
13	33	0.79	4	34	0.81	5	
14	22	0.52	10	21	0.50	10	
15	21	0.50	11	17	0.40	12	

次に、順位を検討すると、通過率の高い上位5位以内でS群D群に共通する問題は4問、また、通過率の低い下位5位以内では5問あった。さらに、両群の順位相関を算出したところ両順位の間には有意差は認められなかった($r_s = .94$)。したがって、情報処理タイプの相違は難易度順位には影響を与えなかったことになる。

続いてpost-testのパートごとにS群とD群の成績の差を検討したところ、差の大きさはパートによって異なる結果が現れた(表9)。成績の差はPart Iにおいて最も大きく、危険率1%レベルで有意差が認められた。つまり今回の実験においては文処理タイプと談話処理タイプの差は視覚的資料を伴う会話形式において最も現れたと言える。

表9：post-testにおけるPartごとの差の検定

item	S 群(n=42)		D 群(n=42)		t
	X	SD	X	SD	
Part I	7.00	1.59	8.10	1.48	3.23 **
Part II	4.95	2.52	6.05	2.40	2.04 *
Part III	5.00	2.28	4.81	2.47	0.37 n.s.
df=82					

5. まとめ

本研究では次の3点が明らかになった。

- (1) 情報処理タイプの違いはリスニングテストに異なる影響を与える傾向がある。
- (2) 談話処理タイプは下位群のリスニングを促進する。
- (3) 文処理タイプと談話処理タイプの相違がリスニングテストに与える影響は、視覚的資料を伴う会話形式において最も大きく、その反面、視覚的資料を伴わない長文形式においては影響を及ぼさない。

現状のリスニング指導では2つの情報処理タイプの相違は考慮されず、それぞれの特性が活かされることはない。今回の研究により、文処理タイプと談話処理タイプの相違がリスニングに影響を与える可能性は一層強まった。しかも、後者は前者よりリスニングを容易にする傾向が判明した。指導者は、情報処理タイプを選択、及び操作することによって、指導目標と学習者の学力レベルに応じたきめの細かい指導を提供できると考える。

引用・参考文献

Halliday, M.A.K. and Hassan, R. 1976. Cohesion in English. London : Longman.

Herriot, Peter. 1969. "The Comprehension of Active and Passive Sentences an Function of Pragmatic Expectations." Journal of verbal learning and Verbal Behavior 8.

Littlewood, William. 1981. Communicative Language Teaching : An Introduction. Cambridge Univ. Press.

Rivers, W.M. and M.S.Temperlry. 1978. A Practical Guide to the Teaching of English as a Second or Foreign Language, Oxford Univ. Press.

Savignon, J.S. 1983. Communicative Competence : Theory and Classroom Practice. Addison Wesley Publishing Company, 1983.

Widdowson, H.G. 1978. Teaching Language as Communication. Oxford Univ. Press.

上田明子 1993. 「パラグラフの聞き取り」『英語のヒアリングとその指導』小池行夫(編) 大修館書店.

国立教育研究所 1993. 「児童・生徒の基礎学力の形成と指導方法等との関連に関する総合的研究」『特別研究「基礎学力」調査報告書』1993.

島村礼子、鈴木博、松山正男 1979. 「HearingにおけるParagraph理解を阻む原因とその対策」『外国語としての英語のHearing能力形成要因の実証的研究(II)』小池行夫(編) 昭和53年度・文部省科学研究費補助金特定研究(1)「言語」. 53-58.

中山隆吉 1979. 「HearingにおけるParagraph理解を阻む原因とその対策」『外国語としての英語のHearing能力形成要因の実証的研究(II)』小池行夫(編) 昭和53年度・文部省科学研究費補助金特定研究(1)「言語」. 61-65.

拙稿 1993,「コミュニケーションの視点による高校入試リスニング問題分析の試み」『中部地区英語教育学会紀要』第23号 219-224.

拙稿 1994,「コミュニケーションの視点による平成6年度高校入試リスニング問題分析」『中部地区英語教育学会紀要』第24号 (印刷中)

Appendix A Script of the Post-Test

Listening Test Script

S群用：文情報処理

Part I

これは二人の会話文を聞いて内容に当てはまる絵を選ぶ問題です。会話は1度だけ読まれます。解答時間は10秒です。では始めます。

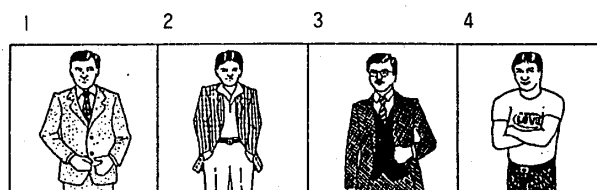
No.1

M : Which one is Taro's father?

W : He is wearing a suit with glasses.

M : Oh I see.

Q : Which picture best fits the description?

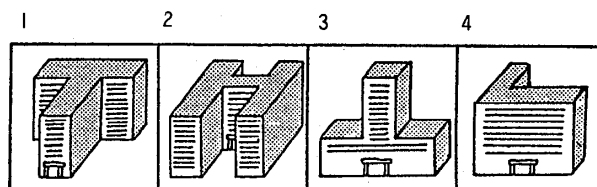


No.2

M : At which hotel are you staying?

W : It's square when we see it at ground level and it's like the letter T when we see it from the sky.

Q : Which picture best fits the description?

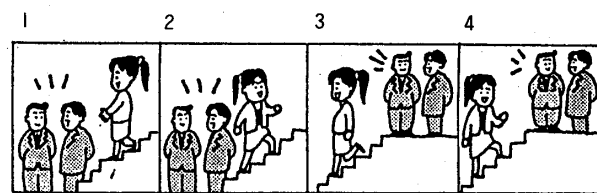


No.3

W : What are they doing?

M : The lady is going downstairs while two gentlemen are talking upstairs.

Q : Which picture best fits the description?

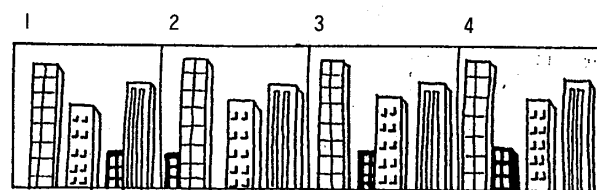


No.4

W : Where is your office?

M : My office building is on the left side of the second tallest building, the black one.

Q : Which picture best fits the description?



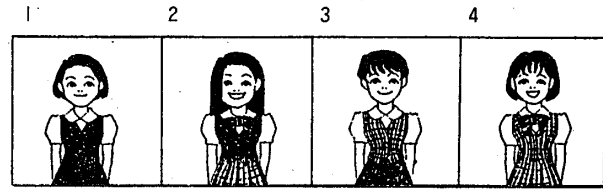
No.5

W : Which one is your girl friend?

M : She's wearing a ribbon with long hair.

W : Oh, I see. That's her.

Q : Which picture best fits the description?



Part II

これは二人の会話文を聞いてその後のQuestionに対する答えを選ぶ問題です。会話とQuestionは1度だけ読まれます。解答時間は10秒です。では始めます。

No.6

W : Did John begin looking for a job?

M : No, he won't graduate from college until a year from March.

Q : When will John graduate from college?

- 1 : This year
- 2 : Next year
- 3 : In two years
- 4 : He already graduated.

No.7

M : When are you going to go shopping?

W : I want to go tomorrow, but the department store is closed on Wednesdays. So I'm going shopping the day after tomorrow.

Q : What day is it today?

- 1 : Monday
- 2 : Tuesday
- 3 : Wednesday
- 4 : Thursday.

No.8

M : Look, there is a great movie on TV tonight!

W : I have to get some sleep so I can wake up early for work tomorrow.

Q : What will the woman do tonight?

- 1 : watch a movie.
- 2 : go to the movies.
- 3 : go to bed early.
- 4 : go to work.

No.9

W : Have you ever seen so many people waiting for the concert?

M : No, I wish we'd stayed at home.

Q : Why does the man wish he had stayed at home?

- 1 : He doesn't like to go to the concert.
- 2 : There are too many people standing in line.
- 3 : He doesn't like music.
- 4 : He likes to listen to CD better.

No.10

M : There's a phone call from your classmate.

W : I must rush out and don't have the time to talk to her, so tell her I'll call her back after lunch.

Q : What will she do?

- 1 : talk to her classmate now.
- 2 : meet her classmate after the call.
- 3 : call her classmate soon.
- 4 : call her classmate in the afternoon.

PartIII

これは英文を聞いてその後のQuestionに対する答えを選ぶ問題です。英文とQuestionは1度だけ読まれます。解答時間は12秒です。では始めます。

No.11

A famous Jazz singer will come to Japan to hold a concert. Today they began to sell tickets at 9:00 a.m. Kumiko came to the ticket counter at 6:00 a.m., but people had already formed a long line and she could finally buy her ticket at 11:00 a.m.

Q : How long did Kumiko wait to buy her ticket?

- 1 : five hours.
- 2 : four hours.
- 3 : three hours.
- 4 : two hours.

No.12

Last summer it was not so hot, so air conditioners didn't sell well. At the end of August Mr. Sato bought one for one hundred thousand yen which was just half of the regular price.

Q : What was the regular price of the air conditioner?

- 1 : 50,000 yen.
- 2 : 100,000 yen.
- 3 : 150,000 yen.
- 4 : 200,000 yen.

No.13

The concert was planned to start at one, but it began half an hour late because of the heavy snow.

Q : What time did the concert begin?

- 1 : at 12:30
- 2 : at 1:00
- 3 : at 1:30
- 4 : it was cancelled.

No.14

Ken was really surprised to meet Junko at the station. After graduating from college, he never had the opportunities to see her. He loved her while in college, but he never opened his heart to her.

Q : What did Junko mean to Ken?

- 1 : She was his girl friend.
- 2 : They loved each other.
- 3 : She loved him, but he doesn't.
- 4 : He loved her, but she didn't know.

No.15

Hiroko has been waiting for a letter from her penpal who lives in Brazil. It is her custom to open the mail box as soon as she comes home.

Q : What has Hiroko been doing?

- 1 : waiting for a penpal from Brazil.
- 2 : waiting for a letter from Brazil.
- 3 : writing a letter to her penpal.
- 4 : reading a letter from her penpal.

D群用：談話情報処理

Part I

これは二人の会話文を聞いて内容に当てはまる絵を選ぶ問題です。会話は1度だけ読まれます。解答時間は10秒です。では始めます。

No.1

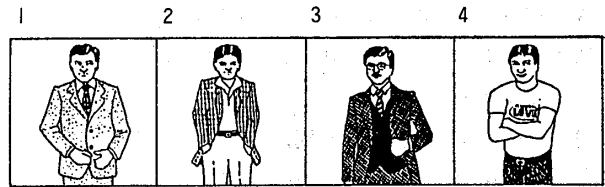
M : Which one is Taro's father?

W : He is wearing a suit.

M : The one with glasses?

M : Yes, that's him.

Q : Which picture best fits the description?



No.2

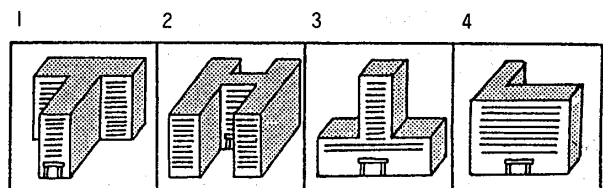
M : At which hotel are you staying?

W : It's square when we see it at ground level.

M : What is it like when we see it from the sky?

W : It's the letter T.

Q : Which picture best fits the description?



No.3

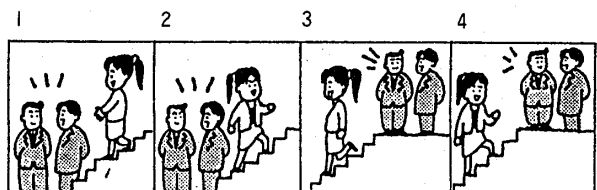
W : What are they doing?

M : The lady is going downstairs.

W : How about two gentlemen?

M : They are talking upstairs.

Q : Which picture best fits the description?



No.4

W : Where is your office?

M : Look at the second tallest building.

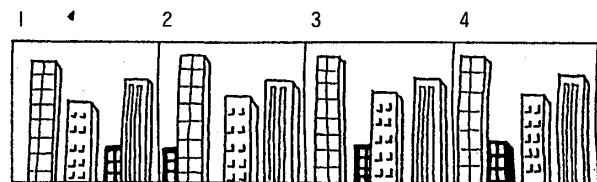
W : O. K.

M : My office building is on the left side of it.

W : The black one?

M : Yes.

Q : Which picture best fits the description?



No.5

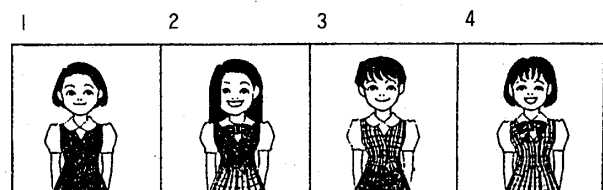
W : Which one is your girl friend?

M : She's wearing a ribbon.

W : The one with long hair?

M : Yes That's her.

Q : Which picture best fits the description?



Part II

これは二人の会話文を聞いてその後のQuestionに対する答えを選ぶ問題です。会話とQuestionは1度だけ読まれます。解答時間は10秒です。では始めます。

No.6

W : Did John begin looking for a job?

M : No, he won't graduate from college.

W : Till when?

M : Until a year from March.

Q : When will John graduate from college?

- 1 : This year
- 2 : Next year
- 3 : In two years
- 4 : He already graduated.

No.7

M : When are you going to go shopping?

W : I want to go tomorrow.

M : But the department store is closed on Wednesdays.

W : Well, then I'm going shopping the day after tomorrow.

Q : What day is it today?

- 1 : Monday
- 2 : Tuesday
- 3 : Wednesday
- 4 : Thursday.

No.8

M : Look, there is a great movie on TV tonight!

W : I have to get some sleep.

M : Why?

W : So I can wake up early for work tomorrow.

Q : What will the woman do tonight?

- 1 : watch a movie.
- 2 : go to the movies.
- 3 : go to bed early.
- 4 : go to work.

No.9

W : Have you ever seen so many people?

M : No.

W : They are waiting for the concert.

M : I wish we'd stayed at home.

Q : Why does the man wish he had stayed at home?

- 1 : He doesn't like to go to the concert.
- 2 : There are too many people standing in line.
- 3 : He doesn't like music.
- 4 : He likes to listen to CD better.

No.10

M : There's a phone call from your classmate.

W : I must rush out and don't have the time to talk to her.

M : What shall I tell her?

W : Tell her I'll call her back.

M : When?

W : After lunch.

Q : What will she do?

- 1 : talk to her classmate now.
- 2 : meet her classmate after the call.
- 3 : call her classmate soon.
- 4 : call her classmate in the afternoon.

PartIII

これは英文を聞いてその後のQuestionに対する答えを選ぶ問題です。英文とQuestionは1度だけ読まれます。解答時間は12秒です。では始めます。

No.11

A famous Jazz singer will come to Japan to hold a concert. Today they began to sell tickets at 9:00 a.m. Kumiko came to the ticket counter at 6:00 a.m., but people had already formed a long line. And she could finally buy one for her at 11:00 a.m.

Q : How long did Kumiko wait to her ticket?

- 1 : five hours.
- 2 : four hours.
- 3 : three hours.
- 4 : two hours.

No.12

Last summer it was not so hot, so air conditioners didn't sell well. At the end of August Mr. Sato bought one for one hundred thousand yen. It was just half of the regular price.

Q : What was the regular price of the air conditioner?

- 1 : 50,000 yen.
- 2 : 100,000 yen.
- 3 : 150,000 yen.
- 4 : 200,000 yen.

No.13

The concert was planned to start at one. But it began half an hour late. It was because of the heavy snow.

Q : What time did the concert begin?

- 1 : at 12:30
- 2 : at 1:00
- 3 : at 1:30
- 4 : it was cancelled.

No.14

Ken was really surprised to meet Junko at the station. He never had the opportunities to see her after graduating from college. He loved her while in college. But he never opened his heart to her.

Q : What did Junko mean to Ken?

- 1 : She was his girl friend.
- 2 : They loved each other.
- 3 : She loved him, but he doesn't.
- 4 : He loved her, but she didn't know.

No.15

Hiroko has been waiting for a letter. It was to come from her penpal. Her penpal lives in Brazil. It is her custom to open the mail box as soon as she comes home.

Q : What has Hiroko been doing?

- 1 : waiting for a penpal from Brazil.
- 2 : waiting for a letter from Brazil.
- 3 : writing a letter to her penpal.
- 4 : reading a letter from her penpal.